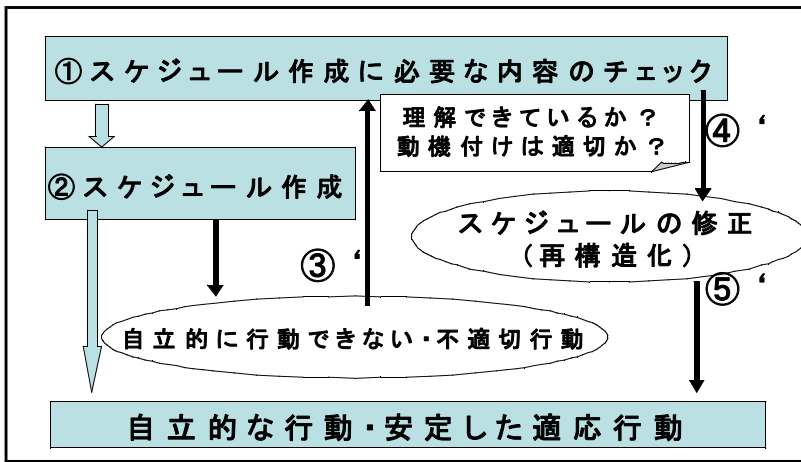


1 スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案) —行動調整につながるスケジュール—

① スケジュール作成のためのチェックリストの目的

個々に応じたスケジュールを作成し活用することは、見通しをもち、安心して生活ができるようになり、行動調整がとれるようになるために必要なことである。そこで、最適なスケジュールを作成し、有効に活用できるようにするために必要な項目をあげチェックできるようにした。

② 活用方法



チェックリストで評価をしてスケジュールを作成してみる。そのスケジュールで十分に自立的な行動ができればよいが、そうでない時には、再度、各項目を見直し、よりその子どもに最適なスケジュールに作り直していく。このようなスケジュールの修正(再構造化)の手続きが重要である。

また、スケジュールのためのチェックリストにより、何を使ってどのように伝えれば理解しやすいか等のコミュニケーションの理解面の実態が把握ができる。

スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案)

学部

氏名

項目	記入者			
	記入日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
確実に理解できる情報	実物			
	色(マッチング)			
	写真(背景あり・なし)			
	絵(カラー・白黒)			
	線画			
	シンボルマーク			
	ひらがな・カタカナ			
理解できる量・時間	漢字			
	その他()			
	1つ			
	2つ			
	3つ			
	4つ			
	半日			
活動の動機付け	1日			
	1週間			
	1ヶ月			
	その他()			
	1回ごとにあるとよい			
理解しやすい提示	2~3回ごとにあるとよい			
	半日ごとにあるとよい			
	1日の終わりにあるとよい			
	1日以上先でもよい			
	その他()			
記憶	手渡し			
	固定(1つずつ)			
	固定(複数)			
	持ち歩き(ボード)			
	持ち歩き(ノート)			
操作	その他()			
	カードを持って移動			
	覚えていられる(どの程度)			
使用するスケジュール	カード等を取る			
	カード等を裏返す			
	その他()			
	具体的なスケジュールの案 (カードの大きさ)			

<スケジュールを作成するためのチェックリスト(凡例)>

確実に理解できる情報: 理解しやすい情報伝達の手段(理解のコミュニケーション)の把握

- 実物・色(同色のマッチングが可能かどうか)・写真・絵・線画・シンボルマーク・文字等などのレベルがもっとも理解しやすいか, 確実に理解できる物は何か。
- ※物理的な構造化がされている教室であれば, 色のマッチングにより場の移動が可能になる。また, 文字がわからないレベルの子どもに写真や絵のスケジュールを使うケースが多いが, どの程度(大きさや内容等)の写真や絵が理解できるのかまで把握する。絵や写真では, 確実に欠ける場合は実物の方が理解がしやすくないかチェックする。文字が読めるようになった子どもには文字のスケジュールを使いがちだが, 文字だけから活動がイメージしにくいケースもあること等に留意する。

理解できる量・時間: 一度に提示して理解できるスケジュールの量の把握

- どの程度先まで見通せるか, 情報の量はどの程度が理解しやすいか
- ※注意の問題があり, 一度に提示されると混乱してしまうもケースもあるので, 作成してみたが自立的に行動できない時は提示量の調整について, 再検討することが必要である。

活動の動機付け: スケジュールに入れることのできる本人の好きな活動の把握

- 好きな活動, 物にはどんなものがあるか。
- ※スケジュールを作成して失敗するケースに, スケジュールが指導者側の一方的な指示の連続になっている場合がある。活動そのものが楽しいことが一番だが, 興味や関心には個人差もあり, 学校生活の中で, すべての活動がその子どもにあった活動をずっと用意できるものではなく, また, 苦手な活動にも取り組まなければいけないこともある。スケジュールの中で, 動機付けとなることが, 本人の見通しの中にうまく組み込まれていることが大事である。耐性もこうした取り組みを通して作られていく。

理解できる提示: 活用しやすいスケジュールの示し方や形態の把握

- 一つ一つ手渡しされた方がいいか, スケジュールを見に行く合図があることで固定式のスケジュールを自分で確認に行けるか, ボードを持ち歩けるか, システム手帳のようなスケジュールが書き込まれたノートが使えるか等

操作: スケジュールを使用する際の操作性の把握

- 手指の操作がどの程度できるかをチェックし, 操作しやすい形を考える。

記憶: 記憶の保持の長さや注意集中の程度の把握

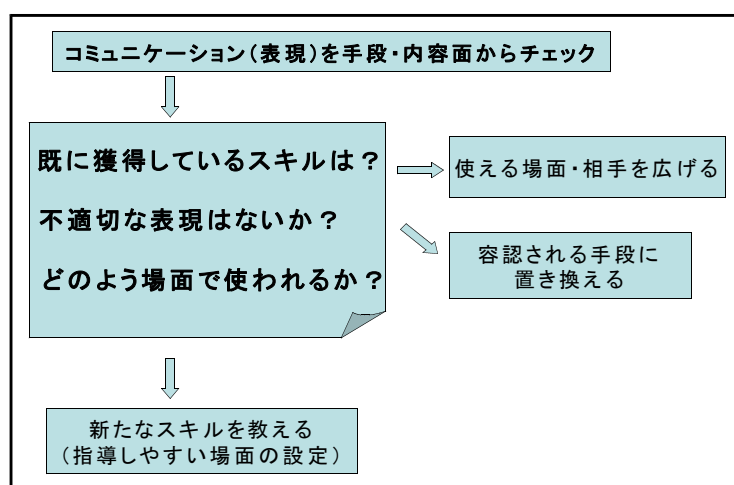
- 次の予定の記憶を活動場所まで保持できるか, 刺激に反応し活動がそれやすくないか。
- ※こうしたタイプの子どもは, 記憶を保持したり活動を思い出すために, カード等をリマインダー(思い出す手掛かりとなるもの)として持ち運ぶようにする。そのために記憶や注意に関するチェックが必要である。

2 コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案) ーコミュニケーション(表現)の支援のためにー

① コミュニケーションのチェックリストの目的

表現面について、支援を考える手掛かりにするための実態把握のツールとして、コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)を作成した。このチェックリストは、「どのような内容をどのような手段で表現しているか」を把握するものである。表現内容については、コミュニケーションの必要度の高い内容を項目としてあげた。表現手段については、自閉症のある子どもが表現しやすいであろうと思われる手段の順番に並べてみた。しかし、そのすべてを指導していかなければいけないというものではない。

② 活用方法



生活全体の場面でのコミュニケーション活動を見直し、すでに使用している手段は何か、不適切な手段で表現していないか、どの場面で使われているのか等を把握する。

使われている手段は使える場面や相手を広げることを、不適切な表現は容認できる手段に置き換えることを目標にしていく。新たなスキルを教える時は、指導しやすい場面を設定し、意図的に指導していくことも必要になる。

コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)

学部 年 氏名 記入者 (記入日: H)

表現手段 表現内容	直接的な動き	クレーン	実物	カード					発声	発語 (単語・二語文以上)	指さし	書字	サイン・身振り	不適切な行動 (詳細は備考)	その他
				写真 (背景あり・なし)	絵 (カラー・白黒)	線画	ひらがな・カタカナ	漢字							
要求 (やってちょうだい)															
要求内容:物 (~が欲しいと表現する)															
要求内容:活動 (~をやりたいと表現する)															
援助 (教えて・助けて)															
排泄の予告															
体調不良 (痛い、疲れた、熱がある等)															
拒否 (嫌だ・やめて・いない等)															
注意喚起 (呼びかけ・注目を促す)															
質問への応答:選択 (どっち・どれにする等)															
情報の伝達 (終了報告)															
質問への応答 (これは何・誰等)															
自発的な発問															
情報の伝達 (感情・現在・過去・未来)															
あいさつ															

○:よく使う表現 △:たまに使う表現

※自発のコミュニケーションの出やすい
場面、内容、相手等

〈備考〉

<コミュニケーションのためのチェックリスト(凡例)>

〔表現手段〕

- 直接的な動き** : 物を見る, 物に手を伸ばす, 接近 等
クレーン : 人の手を持ち, やってほしいところに持っていく
実物 : 実物を持ってくる
カード : カード類を渡す, 指さす
発声 : 意図的に声を出して伝える (泣き声や奇声は不適切な行動)
発語 : 単語, 2語文以上 (質問の意味が分からず出るエコラリア (オウム返し) や遅延性のエコラリアは言葉通りに取らずに意味の解釈に留意する。)
指さし : ほしいもの, やりたいもの等を指さして伝える
書字 : 文字を書いて伝える
サイン・身振り : ジェスチャーやマカトンサイン, 手話で伝える
不適切な行動 : 自傷, 他害, 奇声等 (※詳細は備考欄に記入)
その他 : AAC機器, 文字表, 指文字等

〔表現内容〕

- 要求 (やって, ちょうだい)** : やってほしい時や物がほしい時にどのように表現するか?
「両手を重ねて差し出す (身ぶり)」「大人の手をもっていく (クレーン)」「(そのもの) そばまで行って待つ (直接的な行動)」「『だっだ』等, はっきりした発音にはなっていないが, 声を出して表現する (発声)」
要求内容 (物) : ほしい物をどう伝えるか?
「ジュースが飲みたいときにジュースのペットボトルをもってくる (実物)」等
要求内容 (活動) : やりたい活動があったときにその活動をどう表現するか?
「外に行きたいとき帽子を持つ (実物)」「「ブランコの写真カードを手にとる (カード)」等
援助 : わからないときに教えてほしい, できないときに手伝ってほしい等の表現
「活動を停止し教師を見る (直接的な動き)」「活動を停止し, 奇声をあげる (不適切な行動)」等
排泄の予告 : トイレに行きたいとき等にどう伝えるか?
「トイレのカードを渡す (カード)」「立ってうろうろする (不適切な行動)」等
体調不良 : 体の一部が痛い, 疲れた, 熱がある等の表現
「手を額に当てる (身ぶり)」「保健室の写真カードを示す (カード)」等
拒否 : やりたくないとき, その場から離れたいとき等の表現
「物を片付ける, 場所から逃げる (直接的な動き)」「机を軽く叩く (身振り)」「パニック (不適切な行動)」等
注意喚起 (呼びかけ, 注目を促す) : 教師の背中を叩く (直接的な動き) 等
質問への応答 (選択) : いくつかの選択肢からやりたいもの, 行きたいところ等を選ぶ
質問への応答 (何・誰・どこ・いつ・なぜ・どんな) : 質問にどのように答えるか?
自発的な発問 (何・誰・どこ・いつ・なぜ・どんな) : 質問をどのようにするか?
情報の伝達 (同意・終了報告・感情・やったことの報告・自分の予定を伝える等)
あいさつ (自発か? 促されてか?) ※備考欄に記入

※ 自発のコミュニケーションが出やすい

場面, 内容, 相手等

表現内容を広げたり, 新しい表現手段を獲得させていくための指導場面設定の重要な情報になるので, できるだけ記入。

<備考>

不適切な行動についての詳細, 使えるカードや伝えるサイン等が限定している場合の内容, あいさつは自分からできるか? 等を記入。